



福岡市社協キャラクター
ここと

社協ワーカーだより

No.58 平成29年7月

地域みなさんや関係機関の方々に向けて社協ワーカー（職員）の動きや社協の事業について情報発信するお便りです！！



発行：福岡市社会福祉協議会地域福祉課（TEL720-5356）
各区社会福祉協議会

あなたの暮らしのあんしんのために～日常生活自立支援事業～

「福祉サービスを利用したいけれど手順の仕方がわからない」「お金の管理がうまくできない」・・・。毎日の暮らしの中にはいろいろな不安や疑問、判断に迷ってしまうことがたくさんあります。社会福祉協議会の『日常生活自立支援事業』は、判断能力が低下している人に対して、契約に基づき福祉サービスの利用手続や金銭管理のお手伝いを行います。

どんな人が利用できますか？

自分ひとりで契約などの判断をすることが不安な人や、お金の管理に困っている人などが利用できます。例えば、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などが対象です。

どんなサービスがありますか？

次のようなお手伝いをします。

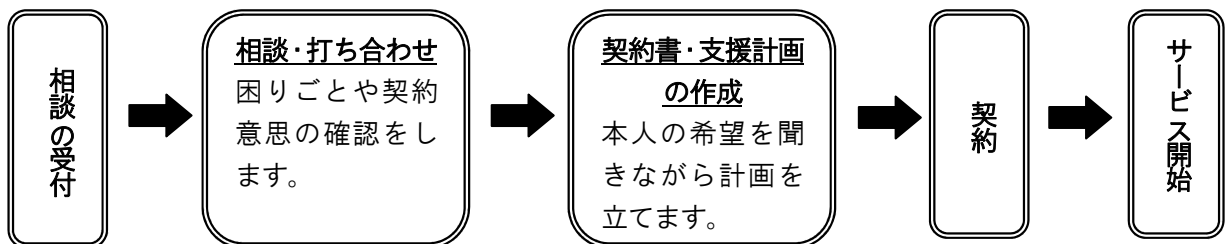
- 福祉サービスを利用するための情報提供や申込みのお手伝い
- 預金の出し入れ、医療費・公共料金などの支払のお手伝い
- 住まいに関する手続きや住民票の届け出などの事務手続きのお手伝い
- 大切な書類や通帳、証書などのお預かり



費用はかかりますか？

相談は無料で、契約後は利用料（1回1,000円）や預かり料金（年間3,000円）が必要です。ただし、生活保護を受けている方は利用料が免除されます。

どうすれば利用できますか？



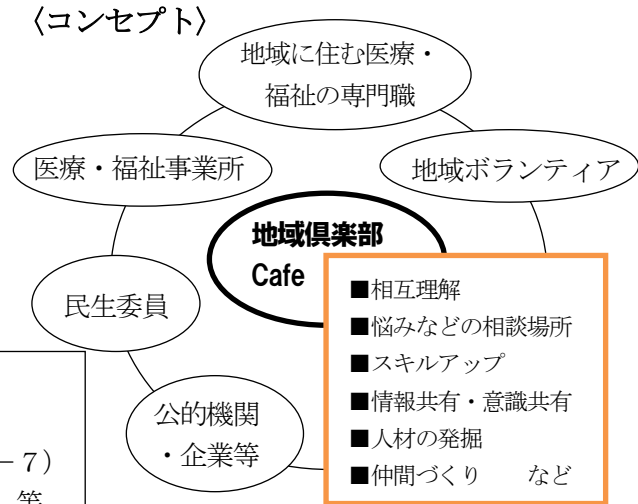
金銭管理や様々な手続きでお困りの方がおられましたら、各区社協の校区担当CSWまたは福岡市社協あんしん生活支援センターに、まずはご相談ください。

【問い合わせ】福岡市社会福祉協議会 あんしん生活支援センター TEL：092-751-4338

地域ネットワークの拠点づくりの事例「顔の見える関係を～地域倶楽部 Cafe～」

平成29年4月から早良区の原中学校圏域(飯倉・飯原・飯倉中央校区)で地域ボランティアや専門職のつどいの場「地域倶楽部 Cafe」がスタートしました。このカフェは、高齢化に伴い認知症の方が増えていく中で地域の身近な相談相手として地域で活動しているボランティアと医療・福祉の専門職をつなぐ拠点づくりを行いたいという、認知症キャラバン・メイト*の方々の思いから実現しました。地域住民だけでなく専門職が参加できる新たな集いの場として、区社協は校区社協や民生委員などへの広報や、他の事業所間ネットワークへのつなぎなどの面で活動を支援しています。

地域倶楽部 Cafe のキャッチコピーは「地域の、地域による、地域のためのサポーターカアップ～出来ることを、出来る人が、出来る時に！の意識共有で広がる支援～」そのため、毎回異なるメンバーが参加しています。それぞれの専門分野からテーマを絞ったセミナーや情報交換会を行い、参加者がお互いに情報や意識を共有したり、日ごろの活動で感じる悩みを相談できる場などとして機能しています。



【地域倶楽部 Cafe の開催について】

- ・日時：毎月第2水曜日 14:00-16:00
- ・場所：さわやかグループホームいいくら（早良区飯倉4丁目8-7）
- ・対象：高齢者を支える地域ボランティア、医療・福祉の専門職 等


※認知症キャラバン・メイトとは？

地域や学校、企業などで認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法などを市民に伝える講師役で、認知症サポーターを養成します。「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」に向けて、関係機関・組織・団体等へのはたらきかけ、協力・連携体制づくりを推進していくことも期待されています。



今月の 気（KEY）になる！！キーワード 「市民のプライド・ランキング」



三菱UFJリサーチ&コンサルティングが6月14日に発表した「市民のプライド・ランキング」で、福岡市が総合1位  になりました。

このランキングは、全国20政令指定都市と東京都区部の21団体の住民を対象に調査を行い、自分たちの暮らしているまちに対して感じている愛着や誇り、お勧め度合い、イメージなどを数値化し、順位付けを行ったものです。

「都市に対する愛着や誇り」という設問では福岡市がトップ、「都市のお勧め度合い」に関する設問でも10項目中9項目で福岡市が1位を独占する結果となりました。その項目の中には、「住むこと」「働くこと」「子育てすること」「いろいろな人と交友を深めること」などがあり、環境や制度などのハード面だけでなく、日ごろからの住み慣れた地域での温かい人間関係や支え合いが充実しているということの表れではないでしょうか。

SOSを言える地域社会づくりを進めましょう！

困った人がいた場合 ①「頼まれなくても助ける」23% ②「頼まれたら助ける」72% ③「断る」5%
「助けて！」と叫べば、①+②=95%が応えてくれます。 <自助の手帳（住民流福祉総合研究所）より>
日本人は大部分の人が「人に迷惑をかけたくない」と助けを求めない → ②（72%）の善意が生かされない。
周りの人たちの力を借りる「助けられ上手」の腕を磨くことは、自助力を高めることでもあるのです。

問合せ：西区社会福祉協議会 Tel：895-3110